

2019 年度 特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

I. 事業の成果

1. 組織の運営

実績	成果・課題
会員は、運営会員 23 名、賛同会員 100 名 前年度に比較して、全体で 14 名増加 寄付件数は 11 件	会員数は増加しているが、未納者も加えての数。 賛同会員と寄付者が重なっており、新規会員獲得がテーマ
定例理事会を年 5 回開催	
事務局はボランティアスタッフも含め、20 名体制で運営	

2. 相談事業・NPOの支援事業

相談事業

実績	成果・課題
事務所での相談は 39 件、四街道市みんなで地域づくりセンターでの相談は 69 件、とみさと市民活動サポートセンターでの相談は 87 件、年間で 195 件の相談件数	昨年度とほぼ同数

講座、講師派遣事業

実績	成果・課題
6/8 講演会「NPOの次のフェーズとは？ープラットフォーム型地域づくり」開催 講師：松原 明さん 参加：47 名	
千葉県市民活動団体マネジメント事業を受託実施 6 講座に延べ 222 名の参加、「出かけてサポート」を実施、個別に団体の課題解決をはかる	定員を超えての受講申込みもあり、一定の成果を得た。
NPO 法人ウイメンズカウンセリングちばとの協働で、「自己表現トレーニング基礎講座 I」講座開催	
NPO と行政との協働や団体のマネジメント、市民の地域づくり活動への参加等についての講座の企画、講師を派遣	

3. 地域づくりのコーディネート事業

①四街道市みんなで地域づくりセンターの運営（地域づくりコーディネーター業務委託事業）

実績	成果・課題
オープン日 238 日、来所者数 3,358 人※大きなテーブル等を含む。新着情報 454 件、相談件数 69 件	今年度は、文化センター耐震工事により、センターが移動し、臨時休館とオープン時間の短縮などがあり、オープン日数は例年より 20 日程少なくなった。
・「自治会情報交換会」（1 回参加 21 名）を開催 ・四街道市地域支えあい推進会議に参画し、高齢者支援課や地域包括支援センター、関係団体等と連携	四街道市に住む外国人（特にアフガニスタンとの共生について、テーマとして掲げ、現状や地域での交流について意見交換できた。
・「子どもサポートプロジェクト」で 中高生のオープンスペース「RAKU まある」9 月オープン（月 1 回開催） ・大人向けチラシ「困っている子いませんか」と子ども向けチラシ「こどもたちのいばしょさがし」各 12000 部作製し小学校	市民と協働して「子どもサポートプロジェクト」を進め、場のある支援（居場所づくり）と場がなくともできる支援（情報発信）を進めた。

に配布、WEB サイトによる情報発信	
「子ども支援団体交流会・円卓会議」開催 参加者：34名	今後の連携に向け互いの取り組みについて情報交換
「子ども見守りサポーター養成講座・実践編」開催 参加者：31名	地域で子どもを見守る大人を増やすことを目指す。
「第1回子ども食堂交流会・学習会」として「食中毒の危険性と予防について～食中毒を防止するとは～」を開催	子ども食堂同志の交流ができ、連携が進んだ。
地域づくりサロン「みんなでおしゃべりできる『居場所』をつくろう！」から立ち上げた、みんなの学食「りんごとはちみつ」は、4月から本格オープン	高校生のスタッフが参加し利用者も定着
「福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル」は、手作りマルシェ「mamamo ichi」と連携し同日開催 2日間開催、福祉施設12団体、協賛6団体、約830人参加、売上げ50万円	福祉施設の販路拡大や就労支援、参加団体と市民、参加団体同士の交流を図る。
「夏休み小学生ボランティア体験」(12団体14プログラムに計82人、大人プログラムに参加した保護者33人) 中学校職場体験(2校6名)、大学生インターンシップ(6名)を受け入れ	若い世代(小学生、中学生、大学生)に地域づくりの活動を知ってもらうことができた。
地域づくりサロンとして、公開講座「認知症になっても地域から孤立しないで自分らしく暮らすということ」(2回66名)「外国にルーツをもつ人達の現状を知る」(44名)開催	多くの市民が参加し、2つのテーマで地域の課題について、意見交換する場ができた。
「コラボ塾」(4回46名)開催	「コラボ四街道(みんなで地域づくり事業提案制度)」への提案につなげた。
「ソシオ・マネジメント勉強会」(9回84名)「広報担当者によるおもしろ広報会議」(2回21人)を開催	団体同志が学び合うことができた。
「みんなでポジティブぼやき座談会」Zoomを使ったオンライン会議	今後のZoomの活用について、手ごたえが得られた。
地域づくりサロン「まちにとけこむアート活動 誰でも参加できるアートでまちづくり」と「NPO・市民活動団体のためのみんなで災害支援ネットワーク会議」は企画したが延期	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため
情報誌「みんなで」の編集、発行、ホームページ、ブログ、facebook	市内の地域づくりの活動やセンター事業の情報発信ができた。

②富里市まちづくりコーディネーター育成業務

実績	成果・課題
コーディネーター会議の開催：全23回(68.5時間)開催	
「居場所情報交換会&交流会」を開催、子ども、高齢者の居場所を運営している団体や今後計画している市民など23名参加	団体間の交流、情報交換をすすめ、連携につながった。
「リーダー研修会」を開催、まち協4地区リーダー9名と市職員19名がグループに分かれ、活動報告、課題共有	話題は「台風災害」に関わるが多かった。
富里市市民活動支援補助金に採択された3団体のヒアリングや広報活動のサポート	
若い世代の地域づくりへのニーズ調査を66名から対面聞き取りで実施	今後のまちづくり協議会リーダー研修会等でも報告し、解決策について話合っていく。
「ちい寄附」を2回実施し、ふるさと応援寄附金「市民活動支援補助金」の原資	賛同店舗が減少し、寄付金額が伸びず、参加店舗への働きかけについて課題
第7回富里市民活動フェスタ開催 当日参加者3,000人(前年度より減少)	開催趣旨などについて確認、出展者の主体的な参加を育む仕組みについて議論を進める。

「夏休み小学生ボランティア体験」プログラム受入れ 10 団体、13 プログラムを実施、延べ 97 名(参加児童数：61 名)	
中学生の職場体験を受入れ、北中、南中、富中から 12 名	おおむね好評
富里高校文化祭で商工観光課、ふるさと産品協議会と連携、「富里ふるさと産品」について説明や試食を実施	理解が深まった。
年間相談件数：87 件(前年 83 件)	新規の相談者が増え、相談事業定着
ニュースレター第 13 号から第 16 号まで編集発行	参加型の紙面づくりを視野に「編集ボランティア・市民ライター」を引き続き募集
Facebook の活用、週に 2 回投稿	
「伝わる写真講座」を 2 回開催、「会議運営の方法 グラフィック・レコーディング」講座を開催	団体の運営改善につながった。

③多世代交流拠点「おおなみなみ」運営事業

実績	成果・課題
開設から 6 年が経過、「多世代交流」に視点を置いた事業を継続。来場者数延べ 1,850 名	地域に定着してきた 3 月後半は新型コロナウイルス感染拡大予防で講座を休止した。
健康貯筋体操、アイチ体操、おとなのための英会話講座を継続開催	ボランティア講師の力が大きい
「みんなでランチ」を月 1 回継続開催(生活クラブ虹の街から「子ども食堂」運営のための助成金 4 万円の助成充当)	参加者の掘り起こしが課題
「ロボットプログラミング」講座の会場等、スペース貸しにより運営費の確保	運営費充当ができた。

④千葉県我がまちシニア応援プロジェクト事業

実績	成果・課題
支援対象団体とボランティア希望者をそれぞれ募り、5 団体と 16 名のボランティア参加者のマッチングを行い、3 カ月間の支援期間で一定の課題解決をはかれるようサポート	プロボノへの理解の促進と人材育成ができた。
説明会の開催(船橋市 9/13、千葉市 9/23 参加者 25 名)と県内 4 カ所で説明会の開催(延べ約 300 名の来場)	事業への理解ができた。
2/29 成果発表会を勝部麗子さん(豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長)講演会「ひとりぼっちをつくらない。全ての人に居場所と役割を！～豊中市のコミュニティソーシャルワーカーの実践から」企画したが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止	準備段階で、ボランティア参加者同志で成果確認ができた。参加申し込み者にも報告冊子を郵送し、事業実績を公開できた。
プロボノの浸透をはかるため、活動報告冊子をボランティア参加者とともに編集・作成し、発送	事業実績が確認、公開できた。

⑤福祉作業所ものづくり応援プロジェクト

「生活クラブ・スピリッツ『Meguru(めぐる)』」カタログ掲載に協力し、福祉事業所の製品を紹介しました。

⑥福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業

実績	成果・課題
千葉県内の生活情報や支援情報を掲載した被災者向け情報紙「縁 joy」を作成、被災元自治体の協力を得て、県内に避難している被災者世帯に送付(毎月 2000 部)	掲載内容の充実をはかることが課題
被災者支援情報交換会を 6/17、2/20 に開催	情報共有ができた。
学習会「今後の防災・避難を考える講話会」を 2/29 に開催	被災当事者の体験を共有できた。

県内の支援団体等がメンバーとする実行委員会により、イベント「縁 joy・東北 2019」を 11/30 に千葉市きぼーるで開催 参加者 530 名	震災から 9 年を経て、避難者の状況、ニーズにも変化。目的、内容の再確認が必要。
--	--

⑦福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業（福島県県外避難者相談センターちば開設）

実績	成果・課題
電話相談、対面相談を実施、電話による相談件数 20 件	同じ方からの相談が多い
避難者の方を講師に迎え拠点にて、避難者と地域住民と一緒に交流会を開催	避難者のやりがいにつながった。
「縁 joy・東北 2019」で、専門家による相談対応	
そごうギャラリーにて、「忘れない東日本大震災—あれから 9 年」と題して、3/10～3/16 に、パネルを展示	一般の方に関心を持ってもらう良い機会になっている。

⑧福島県避難者住宅確保・移転サポート業務

実績	成果・課題
電話相談 8 件、訪問相談 4 件（いずれも延べ数）	複合的な課題を抱えた方からの相談が多い。

⑨千葉南部災害支援センターを拠点とする被災地支援活動

実績	成果・課題
千葉県災害ボランティアセンターとの連携により物資提供の仕組み「スマートサプライ」を通して、支援者と被災地を結び、16 のプロジェクトに 3178 点の物資を提供	発災後への対応に一定の役割を果たせた。実績ができた。
NPO 法人ディーデモクラシー・センターとの協働で、鴨川市の「千葉南部災害支援センター」を拠点とした支援活動を継続実施	被災地への継続支援の拠点を持てた。

⑩浪江町こころ通信取材業務

福島県浪江町から関東圏に避難している町民や浪江町に戻った町民への取材協力を継続

⑪景観まちづくりフォーラム

実績	成果・課題
6/15 に「景観まちづくりフォーラム in 学園通り—楽しいをカタチに」をテーマに、フォーラムを開催しました。参加者は 79 名	多くの参加を得て、大学と地域団体の連携、協働のまちづくりについての理解、共感を得ることができた。
「協議会」の実質構成団体が少なくなっていること、事務局経費が確保できないことから、7 月にて、活動休止	平成 20 年度協働事業として実施以降、継続開催、一定の役割を果たした。

⑫SAVE JAPAN プロジェクト

7/31 一宮町の「一宮ウミガメを見守る会」のイベント「ウミガメの足跡探し（参加者 46 名）」と「ウミガメの手ぬぐい作り（参加者 12 名）」を実施。

⑬ボランティア推進団体会議

7/6、7 に「SDGs が取り残すもの—今ある地域課題を SDGs で解決できるのか？」をテーマに開催。全体会と 4 分科会、クロージングの構成で全国から延べ約 200 名の参加。

⑭NPO 法人地域創造ネットワークちばの事務局業務

実績	成果・課題
農業への就労・研修の相談があり、交流のあった団体への受け入れができた。	農業に関わる団体とのネットワークが活用できた。
Facebook ページおよびブログで、「ちばユニバーサル農業フ	3 紙のイベント紹介欄に掲載、当日は

「エスタ」の開催や出展団体紹介 県内メディアにリリース	日本農業新聞が取材し記事が掲載
生活クラブ千葉グループ協議会、千葉県労働者福祉協議会で、「農業の可能性」「農の価値」を地域に広く伝えた。	協賛 4 団体とさらに広報活動を強化する。
ユニバーサル農業で生産される農産物や加工品の販売促進を目的に、生活クラブ・スピリッツと提携、カタログに掲載、受注の取り次ぎを行った。	
11/16「第9回ちばユニバーサル農業フェスタ」を、道の駅発酵の里こうざきで開催。来場者 500 人、出展団体：地元農家 5 団体、印旛香取地域の障がい福祉事業者 8 団体、総売上げ：291,367 円 「アグリフォーラム&ユニバーサル農業フェスタ」(佐倉市)は、台風 15 号、19 号の影響で開催中止	新たに出展した団体との関係づくりができ、次年度につなげる。
第 1 回つながる経済フォーラムを開催、参加者は 155 名(市民、事業者・企業、NPO、行政、関係機関)	中小企業家、行政が鼎談した意義が大きいこと、リレートークで発表した 7 団体の事業活動内容に多くの関心が寄せられた。

⑮ちばNPO協議会の事務局業務

実績	成果・課題
7/25 講演会「SDGs と市民活動」を岡山NPOセンターの石原達也さんを講師に開催	
12/6 および 2/20 に学習会「となりのNPOー社会的役割を再確認&次のステップを見つけよう！」を開催	会員団体相互の情報交換が進んだが、参加団体が限定されている。
ニュースレター35号を編集発行	

4. 広報事業

実績	成果・課題
ニュースレター「つぎの一步くん」66号、67号、68号、69号を毎回1,000部発行。会員、県内外の市民活動センター・中間支援団体等に配布	プロボノや災害支援など、新しい動きを含め、団体の活動を課題とともに伝えた。
メールマガジン「通信・一步くん」を月2回配信	
千葉の公益ポータルサイト「ちばNPO情報館」の登録団体(117団体)に公開情報の更新をメール等で呼びかけ	資料提出と更新が滞る。「ちばNPO情報館」の意義、役割を明確化することが必要。
団体ホームページのほか、団体ブログ「NPOクラブの愉快的仲間たち」「縁」o y東北~エンジョイ東北」、Facebookページ、Twitterページを適時更新	千葉県南部の災害支援に関するSNSでの発信に高い関心が寄せられ、団体ホームページなどのアクセスもアップした。
千葉日報社の千葉の情報ポータルサイト「ちばとぴ!チャンネル」に「CHIBAKARA~ちばからチャンネル」を開設、適時更新	地域活動への関心を広げ、担い手の掘り起こしに一定つながったが、今後の発信の頻度が課題。

5. 他団体との連携・協力事業

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金に理事として、業務執行理事ミーティング 10 回、定例理事会 3 回、臨時理事会 3 回に出席し、寄付募集、助成審査、諸規定の改定、制定等に携わった。 「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」寄付総額：7,182,290 円、助成 25 事業。被災地で使用したブルーシートでトートバッグを作り、ゴミの削減と被災地支援につなげるプロジェクト「BRIDGE CHIBA プロジェクト」にメンバーとして参画。	運営のための資金調達に課題が残り、今後は事業収入、助成金、寄付、サポーターの獲得、包括的な支援プログラム・事業の設計をした上での資金調達を積極的に進める。
---	---

	委員会等にNPOの立場で関わるとともに、講座等の講師を担った。				市原市 ・一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム ・千葉県社会福祉協議会 ・中間支援組織 ・中央ろうきん
被災地・被災者支援事業	【福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業】	通年	千葉県内	3名	東日本大震災により千葉県内に避難している被災者、支援を行う団体
	【福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業】	通年	千葉県内	3名	東日本大震災により千葉県内に避難している被災者、支援を行う団体
	【福島県避難者住宅確保・移転サポート業務】	通年	千葉県内	3名	東日本大震災により千葉県内に避難している被災者
まちづくり・地域づくり事業	【多様な人々をつなぎ活かす交流拠点事業】	通年	千葉県内	1名	市民一般 来場者数 1,850名